

「災害から妊婦を守る」…日本初 産科救急の人材を育成

2012/9/18

東北大学東北メディカル・メガバンク機構は15—16日、石巻赤十字病院で助産師、診療所医師、救急救命士らを対象にした産科救急のための教育プログラムを開いた。

助産師・診療所医師向けのALSO(オルソ)と、救急救命士など向けのBLSO(ブルソ)の2コースで、病院外での分娩もあった東日本大震災を踏まえて災害時のお産に対応できる人材を育てるのが目的。災害対策としての同プログラムの実施は日本初という。



周産期(妊娠22週目から出生後7日未満)救急に効果的に対応できる知識や能力を身につける米国発祥の教育プログラム。震災からの医療復興と未来型医療の基盤構築を目的に今年2月に設置された同機構が、NPO法人周産期医療支援機構や石巻復興協働プロジェクト協議会などと共催して開いた。

初日のBLSOには石巻地区広域消防本部の救急救命士9人が参加。インストラクターの指導を受けながら人形を使った分娩助産や新生児蘇生、救急車内分娩を実践した。実技を交えてこれらを系統的に学べる唯一無二のプログラムで、参加した内海健治さん(37)は「救急車内での分娩はあまりないケース。こういった研修は役立つ」と話していた。

一方、ALSOは2日間通しの講座で11人が受講。震災時には院外での分娩も多かったことから、停電時でも使える器具の説明などを受けた。

石巻医療圏で分娩施設がある医療機関は、震災で2か所が閉院し、3か所だけ。石巻赤十字病院で分娩の件数が1.5倍になるなど、医師や助産師1人あたりの負担が増えている。プログラムの責任者である同機構地域医療支援部門母児医科学分野の菅原準一教授は、「お産に関わる人のスキルアップが求められる。圏域で安心安全に分娩できる一歩となれば」と期待した。

今後、石巻市で年2回実施することになっている。

【写真】 救急車内での分娩を実践する救急救命士ら

9月18日付「石巻日日新聞社WEB版」より許可を得て転載